

校歌の由来

第三代竹川校長の折に、葛原しげる氏に作詞を依頼し、同氏から、当時、東京音楽学校教授、橋本國彦氏に作曲を委嘱した。昭和十八年十一月二十日、校歌の原本がとどけられた。同校長は早速上京して、作者を訪ね、親しくその意図を聴取された、すなわち  
我が校舎をつつむ自然環境　旭光を浴びてそびえる星高山に高い理想を、白砂青松に千古不易の節操を、日本海の逆まく怒濤に雄しさと不屈不撓の精神を象徴させたものである、と。  
その後、時代の急変にともなうて、昭和二十五年十一月、作詞者の手によつて、歌詞の一部は修正されたが、その主題は一貫したものである。

島根県立江津工業学校　校歌

葛原　　榎　　作詞  
橋本　國彦　作曲

一、旭光燦たる星高山と

我等の学舎理想は崇し。

世界導き天地に

光満たすと創造の

歩みに窮めん真理の高嶺

挺身報國皇民の誓

角の浦回到心身練りて

二、常祿永劫榮ゆく松に

至誠至忠の啓示ぞ深き。

紺碧流す江の川

怒濤万里の日本海

質実剛健矜も永久に

不撓の雄叫び競うか我と

我等の学舎使命は新た

〔昭和一九年五月〕

島根県立江津工業高等学校　校歌

一、旭光燦たる星高山と

我らの学舎　理想は崇し

世界に　あまねく歓喜を

光を　満たすと　創造の

歩みに窮めん　真理の高嶺

気高き誓いに輝く行手

角の浦回到心身練りて

二、常緑映えては伸びゆく松の

しめすは至誠か　久遠の啓示

夜昼　注ぐ江の川

怒濤万里の日本海

質実剛健　矜も永久に

不撓の雄叫び　競うか我と

我等の学舎　使命は新た

〔昭和二十五年十一月　修正〕

【応援歌集】

大和島根

一、大和島根の岸高く

ざん岩波頭をかむところ

金波銀波にはゆる陽の

丘上高し我が学舎

二、暁雲匂う星高の

清き心のますらおが

雄たけびついにこだまして

じゆういの袖に涙あり

三、鉄腕ふるい健脚の

しつかと大地をふみしめる

我らが胸の熱血は

倒れてやまぬ大和魂

江の川流れて三千年

一、江の川流れて三千年

角の浦わの昔より

石見文化の起こるとこ

二、山紫に水清く

松籟軽く渡る中

我らが学舎そびえぬる

三、熱砂えんえん続く浜

怒涛たけりて狂うとこ

双脚のびて体固し

四、見よや白亜の工場を

煤煙空をおおいつつ

産業戦士はぐくまる

潮しよう細き

一、潮しよう細き角の浦

流れにもおう江の川

不屈の色もおごそかに

たてるは剛の我が選手

海原にきたえたる

肉はおどりて血はたぎる

二、鍛える男子なお強し

江工健児意気高し

鍛えに鍛えし腕のさえ

示すはいまぞこの時ぞ

血も凍る気高さに

勝ちて帰れよ我が友よ

百花よそおい

一、百花よそおい鳥歌い

人・玉杯をそそぐとも

「何くそ負けてなるものか

光は我とともにあり

いざ行け若人 学びの道へ」

二、炎熱肌をこがすとも

緑樹のかげに声きくも

「以下同じ」

三、七草野辺に咲き乱れ

名月心に宿れども

「以下同じ」

四、寒月踏んで門を出で

星いだいて帰るとも

「以下同じ」

# 校訓

校訓「質実剛健・不撓不屈」は、平成五年十一月二十二日に制定された。本校は、昭和九年の島根県立江津工芸学校の創立をもって開校とし、昭和十五年に島根県立江津工業学校、昭和二十三年に島根県立江津工業高等学校と名称を変更し現在に至っている。

「質実剛健」は、島根県立江津工芸学校・島根県立江津工業学校の綱領及び島根県立江津工業高等学校の教育方針の中にある言葉である。

「不撓不屈」は、島根県立江津工業高等学校の教育方針の中にある言葉である。

また、「質実剛健」「不撓」の言葉は、島根県立江津工業学校・島根県立江津工業高等学校の校歌の一節でもある。



江工会建立（平成6年3月）

## 江工会事務局

所在地 〒695-0011  
島根県江津市江津町1477番地  
島根県立江津工業高等学校 内

電話 (0855) 52-2120  
FAX (0855) 52-2264